

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0491100103		
法人名	株式会社 アイ・ケイ・サポート		
事業所名	カーサ岩沼	ユニット名	いぶき
所在地	宮城県岩沼市中央3丁目7-16		
自己評価作成日	平成29年11月11日		

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.jp/
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	NPO法人 介護の社会化を進める一万人市民委員会宮城県民の会		
所在地	宮城県仙台市宮城野区榴岡4-2-8 テルウェル仙台ビル2階		
訪問調査日	平成29年12月13日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<p>ご入居者様、ご家族様との信頼関係を大切にすることで「看取り」まで行うことを発信している</p>
--

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

<p>法人は、JR岩沼駅より徒歩7～8分の住宅地にあり、有料老人ホーム(介護付き・自立型)・デイサービス・訪問介護・居宅介護サービスを総合的に提供している。7階建ての高齢者複合施設の2階に2ユニットのホームがある。看護師とは24時間オンコールで対応出来、医療面でも安心感がある。法人合同で開催する夏祭りに地域の方々も多数参加し、太鼓・神輿・的当て・くじ引きなどを楽しんでいる。社協・地域包括との連携で「認知症カフェ メロディ」を施設内で隔月開催し、相談コーナーを設け、地域の人の認知症等の相談に乗っている。干し柿作りをしたり、クリスマスに向けて入居者と職員がハンドベルを楽しみながら練習している。</p>
--

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

2 自己評価および外部評価結果(詳細)(事業所名カーサ岩沼)

ユニット名: いぶき

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念作成にあたり全職員の意見を反映し、管理者・職員とも共有し実践している	「入居者様の気持ちを尊重し、笑顔と優しい言葉で接します」を共有している。日々のケアの中で悩んだ時、理念を振り返ると優しい気持ちになれると言い、実践につなげている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	施設周辺の清掃活動や町内会行事に参加して交流を行っている	法人合同の夏祭りに地域の人達も多数参加している。歌・踊り・ハーモニカ等のボランティアの来訪があり、デイサービスの利用者と一緒に楽しんでいる。併設の園児と、日々微笑ましい交流もある。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	認知症カフェを開催し講話等を行っている		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	入居者様、ご家族様、包括様などのご意見をお聞きし改善に努めている	メンバーは町内会長・民生児童委員・家族・岩沼市・地域包括から成り、定期的開催されている。地域包括や家族等からの情報提供もあるが、その内容が記載されている記録が確認出来ない。	急遽管理者の交替があったばかりという事情はあるが、運営推進会議の意義をふまえ、会議を活用し地域に開かれた事業所として取り組んでいけるよう今後に期待したい。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	設立時事情により担当者との情報のやりとりは多く協力関係は取れている	前の法人から運営を引き継ぐ際、岩沼市と協力・相談しながら「カーサ岩沼グループホーム」も設立した。看取り加算や書類上の変更届時に窓口に出向いたり、2か月に1度、市が主催する勉強会に参加している。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	会社として「身体拘束排除宣言」を表示し、職員間にも徹底されている	転倒防止の為に家族と相談し、センサーマットを使用している方が数名いる。今月の標語は「口調に気を付ける」とし、職員間で共有している。独りで出かける気配を察した時は、家事や読書等本人が集中出来そうな事を試しながら取り組んでいる。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	事故・虐待防止委員会での話し合いや、毎月の標語掲示等で周知している		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	内部、外部研修において周知している		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	事前文書や説明会開催などを行っている		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議開催時に意見を聞き、施設内で検討している	面会やケアプラン作成時に聞いている。誤嚥性肺炎で入院した方の家族から、退院後もホームに戻れるか不安との相談があり、検討の結果エアマットやリクライニング式の車椅子で対応し安心につながった事例がある。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	事業所会議を行い職員の意見を聞き、検討する機会を設け反映している	全体会議終了後、引き続きユニット毎の会議を月1度行っている。職員は家族に日常の様子を伝え、家族の話もよく聞いている。排便に問題があった方が、繊維入りのゼリーで試した結果改善している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	定期的な面談を行い、職員の意見・考えを聞き本人の自信に繋がるよう環境調整を心がけている		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員の個々の能力及び経験年数を考慮し、キャリアパス支援事業研修等への参加をおこなっている		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	外部研修に参加することで、他事業者との交流を図り、情報交換を行い、事業所内での報告をおこなっている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	実態調査時にご本人の意向、要望等を確認している。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	実態調査時にご家族の意向、要望等を確認している。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	適切なアセスメントおこない、インフォーマルサービス等を含めた対応を考えている		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	ご利用者様本人に寄り添い、共有する時間を設けてコミュニケーションを図っている		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会時や受診時などご利用者様ご本人とご家族が過ごせる時間をもって頂き、情報共有に努め、共に支えていく関係性であるよう、努めている		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご家族や馴染みの方が参加できるような機会を設けられるよう、考え、声がけしている	新設合併する前に名取郡にあった「千貫村」等の馴染みの場所や、隔月開催される「認知症カフェ メロディー」に出かけている。友人が来訪したり、家族と墓参りをしている方もいる。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者様の性格や生活状況を把握し、利用者様同士交流が図れるよう環境づくり、行事企画を行っている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービス終了後もご家族への連絡をとり、サービスに関する振り返り等を行っている		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	アセスメントおこない、ご本人の思い、意向をくみとり、ご本人主体で支援出来るよう努めている	生活歴からや、日常生活の希望を本人が選びやすいように選択肢を用意して聞いている。重度化して臥せている方の希望で、ふるさと荒浜のカレイを提供したら懐かしみながら食べ満足していた。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	サービス開始前にご本人、ご家族と話し合い、どのように生活されてきたか、確認している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	ご利用者様の生活スタイル、心身の状態、残存能力を把握し、適切な支援が出来るよう努めている		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	定期的カンファレンスを行い、現状把握及び課題分析し適切なケアを行えるよう、計画作成している。	ケアの方向性をアセスメントしたり、日々の記録等を参考にカンファレンスし意見を出し合っている。家族と医師の意見も入れプランを作成している。夜間放尿癖がある方の対応としてセンサーマットを使用している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の記録を行い、職員間で確認しあい、カンファレンスにて意見を出し合い、計画作成時に見直し、反映させるようにしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ご本人の状態変化時におけるアセスメント、ご家族との連絡調整を行い、必要なサービスの検討し、調整を行っている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域包括支援センターや他事業所との情報交換、交流の機会を持ち、地域資源の把握に努め、ご利用者様が地域の中で過ごしていけるような支援が出来るよう努めている		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	受診時はご本人様の心身の状態報告及び、ご家族の要望を報告している。	通院する方と往診(2週間に1度)を受診する方は半々である。受診の結果は、ユニットのキッチンに1週間貼り出して職員間で共有している。耳鼻科の専門医に通院し、蓄膿症が改善した方がいる。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	ご利用者様の心身の状態の変化の際は、同施設内の看護師に状態報告し往診の医師との連携、かかりつけ医への受診が出来るよう指示を受け適切な対応が出来る体制づくりに努めている		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院の際に病院相談員と連絡をとり、情報共有に努め、ケアマネージャー訪問し状態確認おこない入院中及び退院後もご本人らしい生活を送れるよう連携に努めている		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	ターミナル期におけるケアについて、ご本人様・ご家族に説明を行っている。ターミナル期の状態の際は、医師からの説明、ご家族・管理者・ケアマネージャー・看護師・介護職員と話し合いターミナル期に応じたケアの確認を行っている	入居時に重度化・終末期についての指針を文書で説明している。最近家族と協力しながらホームでの看取りを支援した。法人の看護師から研修を受けていることもあり、職員は安らかに看送ることが出来て、貴重な経験だったと前向きに捉えている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	ユニットミーティング等で取り入れ、職員間で確認し合うよう心がけている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	あらゆる災害を想定し、定期的に訓練を行っている	火事・地震・水害・豪雨・強風それぞれのマニュアルがある。夜間想定を含め7階建の全館合同で火事の避難訓練を2回実施している。地域の協力は欠かせないが、体制構築はこれからである。	訓練で見えた課題と反省を記録し共有すると共に、グループホームは2階にある事から、運営推進会議を通して地域住民による避難協力要請をお願いしたい。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	言葉遣いによる虐待防止評価基準表をユニット内に掲示し、言葉遣いに注意している。	本人を抑制するような言い方はせず、先ず受容する。怒っているとすれば、その理由を書いてもらうなど探って対応している。「さん付け」「〇〇先生」「ばばちゃん」等、それぞれ反応が良い方で呼びかけている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	ご本人が、思いや希望を表した際は、思いに添えるよう努めている。また選択肢を提案し自己決定できるように心がけている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	ご本人生活状況を把握し、声がけをおこなない希望にそえるケアができるよう心がけている		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	ご家族様に協力を得て、ご本人好みの服や小物類など用意して頂き、おしゃれができるようにしている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	ご利用者様の嗜好を把握し、残存能力に応じた食事の準備等をお手伝い頂いている。	朝・夕は法人の厨房から届く。昼の食材は入居者と一緒に行きに行くこともある。誕生日に手作りのケーキの上に本人の似顔絵を描いたクッキーを添え喜ばれている。職員が入居者と一緒の昼食も一考と思われる。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事・水分摂取量を記録し一日の摂取量を把握している。また一人ひとりの状態に合わせた形態を検討している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後に行っている。自力で可能な方にはセットし行って頂いている。介助が必要な方はその方に応じた口腔ケアを行っている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	ご利用者様のADL把握し、排泄介助・排泄パターンを検討し、適切なおむつやパット類を使用するようにしている。	排泄チェック表を参考に、出来るだけトイレに誘導する。夜間は安眠を重視し起こされたくない并希望する方には、長時間使用できるタイプの物を使用している。本人に合うパッドの大きさを選び対応している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	個々の便秘の状況に合わせ、飲食物の工夫、下剤等のコントロール方法を検討し取り組んでいる		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	利用者様の体調に合わせて、時間帯等考え入浴を行っている	週2回午前中に入浴しているが、本人の体調と状態に合わせて就寝前に清拭や足浴の支援をしている方もいる。サニタリーに関するものが雑多になりがちな場所は、脱衣する時はパーテーションで区切る工夫をしている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	ご本人の生活状況や習慣を把握し、休息や臥床の時間を設けるよう努めている		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	お薬情報をファイルに入れ職員が確認できるようにしている。また、個人の薬袋にも服薬状況を明記し、確認できるようにしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	生活歴を把握し、ご本人が行ってきたことを取り入れたり、誕生日をお祝いしたり、行事等を実施している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	その日の希望については施設内外へ散歩にでかけたり、普段行けない場所については、外出行事等に組み込むよう努めている。	今日は快晴だからと俄かに出かけた「千年の丘」では羊の群れに出会い感動したり、柴田の菊人形展・亶理公園等に外出している。ホーム内の運動会のパン食い競争で盛り上がっている様子を、外出が困難な方の居室のドアを開けたままにし共感していた。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	金銭は基本、職員側で預かっているが、外出の際など、ご本人と一緒に支払うようにすることで、お金の理解をして頂くよう心がけている		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご本人から訴えがあった際は、職員聴き取りをおこなったり、電話ができる方には直接電話のところまで来て頂き、ご家族へ連絡を行っている		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご利用者様が混乱するようなものは取り除き、その季節に応じた装飾、花などをかざり、季節感を出すよう心がけている	大きい窓のある明るいホールは、クリスマス飾りが季節感を演出している。季節の飾りつけをする場合、柿等は目線から高くあるいは低い場所に飾り、食べものと混乱しないよう工夫している。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ユニットホール内でひとりになれる場所の確保、また、話しやすい方同士の座席等の配慮を行っている		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご家族に協力を得て、生活の中で使用していたものを居室内に設置し、居心地の良い空間作りに努めている	自宅で使用していた寝具・家具や家族の写真等を持ち込み安心感に繋げている。居室の掃除は職員がしているが、集めたゴミを塵取りで取ってくれたり、新聞を購読し寛いでいる方もいる。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	居室前には表札等にて名前を確認できるようにし、居室トイレ等もわかりやすい表示方法を検討し行っている		

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0491100103		
法人名	株式会社 アイ・ケイ・サポート		
事業所名	カーサ岩沼	ユニット名	せせらぎ
所在地	宮城県岩沼市中央3丁目7-16		
自己評価作成日	平成29年11月11日		

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaijokensaku.jp/
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	NPO法人 介護の社会化を進める一万人市民委員会宮城県民の会		
所在地	宮城県仙台市宮城野区榴岡4-2-8 テルウェル仙台ビル2階		
訪問調査日	平成29年12月13日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<p>ご入居者様、ご家族様との信頼関係を大切にすることで「看取り」まで行うことを発信している</p>
--

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

<p>法人は、JR岩沼駅より徒歩7～8分の住宅地にあり、有料老人ホーム(介護付き・自立型)・デイサービス・訪問介護・居宅介護サービスを総合的に提供している。7階建ての高齢者複合施設の2階に2ユニットのホームがある。看護師とは24時間オンコールで対応出来、医療面でも安心感がある。法人合同で開催する夏祭りに地域の方々も多数参加し、太鼓・神輿・的当て・くじ引きなどを楽しんでいる。社協・地域包括との連携で「認知症カフェ メロディ」を施設内で隔月開催し、相談コーナーを設け、地域の人の認知症等の相談に乗っている。干し柿作りをしたり、クリスマスに向けて入居者と職員がハンドベルを楽しみながら練習している。</p>
--

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

2 自己評価および外部評価結果(詳細)(事業所名 カーサ岩沼

)「ユニット名 せせらぎ

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念作成にあたり全職員の意見を反映し、管理者・職員とも共有し実践している	「入居者様の気持ちを尊重し、笑顔と優しい言葉で接します」を共有している。日々のケアの中で悩んだ時、理念を振り返ると優しい気持ちになれると言い、実践につなげている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	施設周辺の清掃活動や町内会行事に参加し交流を行っている	法人合同の夏祭りに地域の人達も多数参加している。歌・踊り・ハーモニカ等のボランティアの来訪があり、デイサービスの利用者と一緒に楽しんでいる。併設の園児と、日々微笑ましい交流もある。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	認知症カフェを開催し講話等を行っている		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	入居者様、ご家族様、包括支援センター様などのご意見をお聞きし改善に努めている	メンバーは町内会長・民生児童委員・家族・岩沼市・地域包括から成り、定期的開催されている。地域包括や家族等からの情報提供もあるが、その内容が記載されている記録が確認出来ない。	急遽管理者の交替があったばかりという事情はあるが、運営推進会議の意義をふまえ、会議を活用し地域に開かれた事業所として取り組んでいけるよう今後に期待したい。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	設立時事情により、担当者との情報のやりとりは多く協力関係は取れている	前の法人から運営を引き継ぐ際、岩沼市と協力・相談しながら「カーサ岩沼グループホーム」も設立した。看取り加算や書類上の変更届時に窓口に出向いたり、2か月に1度、市が主催する勉強会に参加している。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	会社として「身体拘束排除宣言」を表示し、職員間にも徹底されている	転倒防止の為に家族と相談し、センサーマットを使用している方が数名いる。今月の標語は「口調に気を付ける」とし、職員間で共有している。独りで出かける気配を察した時は、家事や読書等本人が集中出来そうな事を試しながら取り組んでいる。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	事故・虐待防止委員会での話し合いや、毎月の標語掲示等で周知している		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	内部・外部研修において周知している		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	事前文書や説明会開催などを行っている		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議開催時に意見を聞き、施設内で検討している	面会やケアプラン作成時に聞いている。誤嚥性肺炎で入院した方の家族から、退院後もホームに戻れるか不安との相談があり、検討の結果エアマットやリクライニング式の車椅子で対応し安心につながった事例がある。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	事業所会議を行い職員の意見を聞き、検討する機会を設け反映している	全体会議終了後、引き続きユニット毎の会議を月1度行っている。職員は家族に日常の様子を伝え、家族の話もよく聞いている。排便に問題があった方が、繊維入りのゼリーで試した結果改善している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	定期的な面談を行い、職員の意見・考えを聞き本人の自信に繋がるよう環境調整を心がけている		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員の個々の能力及び経験年数を考慮し、キャリアパス支援事業研修等への参加を行っている		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	外部研修に参加することで、他事業者との交流を図り、情報交換を行い、事業所内での報告をおこなっている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	実態調査時にご本人の意向、要望等を確認している。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	実態調査時にご家族の意向、要望等を確認している。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	適切なアセスメントおこない、インフォーマルサービス等を含めた対応を考えている		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	ご利用者様本人に寄り添い、共有する時間を設けてコミュニケーションを図っている		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会時や受診時などご利用者様ご本人とご家族が過ごせる時間をもって頂き、情報共有に努め、共に支えていく関係性であるよう、努めている		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご家族や馴染みの方が参加できるような機会を設けられるよう、考え、声がけしている	新設合併する前に名取郡にあった「千貫村」等の馴染みの場所や、隔月開催される「認知症カフェ メロディー」に出かけている。友人が来訪したり、家族と墓参りをしている方もいる。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者様の性格や生活状況を把握し、利用者様同士交流が図れるよう環境づくり、行事企画を行っている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービス終了後もご家族への連絡をとり、サービスに関する振り返り等を行っている		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	アセスメントおこない、ご本人の思い、意向をくみとり、ご本人主体で支援できるよう努めている	生活歴からや、日常生活の希望を本人が選びやすいように選択肢を用意して聞いている。重度化して臥せている方の希望で、ふるさと荒浜のカレイを提供したら懐かしみながら食べ満足していた。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	サービス開始前にご本人、ご家族と話し合い、どのように生活されてきたか、確認している		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	ご利用者様の生活スタイル、心身の状態、残存能力を把握し、適切な支援ができるよう努めている		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	定期的カンファレンスを行い、現状把握及び課題分析し適切なケアを行えるよう、計画作成している。	ケアの方向性をアセスメントしたり、日々の記録等を参考にカンファレンスし意見を出し合っている。家族と医師の意見も入れプランを作成している。夜間放尿癖がある方の対応としてセンサーマットを使用している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の記録を行い、職員間で確認しあい、カンファレンスにて意見を出し合い、計画作成時に見直し、反映させるようにしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ご本人の状態変化時におけるアセスメント、ご家族との連絡調整を行い、必要なサービスの検討をし、調整を行っている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域包括支援センターや他事業所との情報交換、交流の機会をもち、地域資源の把握に努め、ご利用者様が地域の中で過ごしていけるような支援ができるよう努めている		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	受診時はご本人様の心身の状態報告及び、ご家族の要望を報告している。	通院する方と往診(2週間に1度)を受診する方は半々である。受診の結果は、ユニットのキッチンに1週間貼り出して職員間で共有している。耳鼻科の専門医に通院し、蓄膿症が改善した方がいる。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	ご利用者様の心身の状態の変化の際は、同施設内の看護師に状態報告し往診の医師との連携、かかりつけ医への受診ができるよう指示を受け適切な対応ができる体制づくりに努めている		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院の際に病院相談員と連絡をとり、情報共有に努め、ケアマネジャー訪問し状態確認を行い、入院中及び退院後もご本人らしい生活を送れるよう連携に努めている		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	ターミナル期におけるケアについて、ご本人様・ご家族様に説明を行っている。ターミナル期の状態の際は、医師からの説明、ご家族様・管理者・ケアマネジャー・看護師・介護職員と話し合いターミナル期に応じたケアの確認を行っている	入居時に重度化・終末期についての指針を文書で説明している。最近家族と協力しながらホームでの看取りを支援した。法人の看護師から研修を受けていることもあり、職員は安らかに看送ることが出来て、貴重な経験だったと前向きに捉えている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	ユニットミーティング等で取り入れ、職員間で確認し合うよう心がけている		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	あらゆる災害を想定し、定期的に訓練を行っている	火事・地震・水害・豪雨・強風それぞれのマニュアルがある。夜間想定を含め7階建の全館合同で火事の避難訓練を2回実施している。地域の協力は欠かせないが、体制構築はこれからである。	訓練で見えた課題と反省を記録し共有すると共に、グループホームは2階にある事から、運営推進会議を通して地域住民による避難協力要請をお願いしたい。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	言葉遣いによる虐待防止評価基準表をユニット内に掲示し、言葉遣いに注意している。	本人を抑制するような言い方はせず、先ず受容する。怒っているとすれば、その理由を書いてもらうなど探って対応している。「さん付け」「〇〇先生」「ばばちゃん」等、それぞれ反応が良い方で呼びかけている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	ご本人が、思いや希望を表した際は、思いに添えるよう努めている。又、選択肢を提案し自己決定できるように心がけている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	ご本人の生活状況を把握し、声かけをおこない希望に添えるケアができるよう心がけている		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	ご家族様に協力を得て、ご本人様の好みの服や小物類など用意して頂き、おしゃれができるようにしている		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	ご利用者様の嗜好を把握し、残存能力に応じた食事の準備等をお手伝い頂いている。	朝・夕は法人の厨房から届く。昼の食材は入居者と一緒に買いに行くこともある。誕生日に手作りのケーキの上に本人の似顔絵を描いたクッキーを添え喜ばれている。職員が入居者と一緒の昼食も一考と思われる。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事・水分摂取量を記録し一日の摂取量を把握している。また、一人ひとりの状態に合わせた形態を検討している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後に行っている。自力で可能な方にはセットし行って頂いている。介助が必要な方はその方に応じた口腔ケアを行っている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	ご利用者様のADL把握し、排泄介助・排泄パターンを検討し、適切なおむつやパット類を使用するようにしている。	排泄チェック表を参考に、出来るだけトイレに誘導する。夜間は安眠を重視し起こされたくない并希望する方には、長時間使用できるタイプの物を使用している。本人に合うパッドの大きさを選び対応している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	個々の便秘の状況に合わせ、飲食物の工夫、下剤等のコントロール方法を検討し、取り組んでいる		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	利用者様の体調に合わせて、時間帯を考え入浴を行っている	週2回午前中に入浴しているが、本人の体調と状態に合わせて就寝前に清拭や足浴の支援をしている方もいる。サニタリーに関するものが雑多になりがちな場所は、脱衣する時はパーテーションで区切る工夫をしている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	ご本人の生活状況や習慣を把握し、休息や臥床の時間を設けるよう努めている		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	お薬情報をファイルに入れ職員が確認できるようにしている。また、個人の薬袋にも服薬状況を明記し、確認できるようにしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	生活歴を把握し、ご本人が行ってきたことを取り入れたり、お誕生日をお祝いしたり、行事等を実施している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	その日の希望については施設内外へ散歩にでかけたり、普段行けない場所については、外出行事等に組み込むよう努めている	今日は快晴だからと俄かに出かけた「千年の丘」では羊の群れに出会い感動したり、柴田の菊人形展・亘理公園等に外出している。ホーム内の運動会のパン食い競争で盛り上がっている様子を、外出が困難な方の居室のドアを開けたままにし共感していた。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	金銭は基本、職員側で預かっているが、外出の際など、ご本人と一緒に支払うようにすることで、お金の理解をして頂くよう心がけている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご本人から訴えがあった際は、職員聴き取り、を行ったり、電話ができる方には直接電話のところまで来て頂き、ご家族への連絡を行っている		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご利用者様が混乱するようなものは取り除き、その季節に応じた装飾、花などをかざり、季節感をだすよう心がけている。	大きい窓のある明るいホールは、クリスマス飾りが季節感を演出している。季節の飾りつけをする場合、柿等は目線から高くあるいは低い場所に飾り、食べものと混乱しないよう工夫している。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ユニットホール内でひとりになれる場所の確保、また、話しやすい方同士の座席等の配慮を行っている		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご家族に協力を得て、生活の中で使用していたものを居室内に設置し、居心地の良い空間作りに努めている	自宅で使用していた寝具・家具や家族の写真等を持ち込み安心感に繋げている。居室の掃除は職員がしているが、集めたゴミを塵取りで取ってくれたり、新聞を購読し寛いでいる方もいる。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	居室前には表札等にて名前を確認できるようにし、居室トイレ等にもわかりやすい表示方法を検討し行っている		